

人と自然の古くて新しい関係

講演者等



宇野裕之

東京農工大学 野生動物管理教育研究センター

「鳥獣害管理の担い手を育てる」

地域における課題解決のため、野生動物管理に関する幅広い知識と計画立案・モニタリング・評価・合意形成を担うことができる人材の育成を目的として、省庁や複数の大学と連携して実施している当センターの教育プログラムを紹介します。



村田浩一

ズーラシア園長

「そもそも人間と野生動物は共存できるのか？」

社会や環境の変化により野生動物行動が変容し、気候変動の影響で絶滅が危惧される種も少なくありません。それは我々自身にも起こり得ることです。ならば、人類存続のための野生生物保全という思考のシフトチェンジが必要となるでしょう。



八代田千鶴

(国研)森林機構 森林総合研究所関西支所 / 「野生生物と社会」学会
「野生生物と社会」学会の目指す新たな関係」

「野生生物と社会」学会は、野生生物と人とのよりよい関係づくりに取り組む多様な人々が集うプラットフォームとして活動しています。保護だけでも管理だけでなく、新たな関係を目指す当学会の活動をご紹介します。



倉田薫子

横浜国立大学

「高校生から始める生物多様性」

現行の学習指導要領から、持続可能な社会の創り手を育てる教育“ESD”が導入されました。子どもたちは今どのように生物多様性を捉えているのか？— ESDの一環として生物多様性の認知向上を図る取組について紹介します。



朱宮丈晴

日本自然保護協会、日本 MAB 計画支援委員会

「日本版ネーチャーポジティブアプローチをユネスコエコパークで展開する」

日本自然保護協会が、みなかみユネスコエコパークで進めているネーチャーポジティブの取り組みや JBRN への展開を簡単に紹介します。



古田尚也

大正大学、IUCN 日本リエゾンオフィス

「自然保護区以外の普通の場所の自然保護」

生物多様性条約のもとで、2030年までに陸域と海域の30%を保護・保全するという30by30目標が議論されています。本講演では、保護地域の歴史とともに、自然共生サイト(OECM)誕生の背景や今後の実装に向けての課題について議論を試みます。



須藤明子

株式会社イーグレット・オフィス、日本イヌワシ研究会

「人と野生動物の共存に挑む」

野生動物管理は、人と野生動物が共に暮らせる自然環境を保全する苦肉の策です。奥山の自然を象徴する絶滅危惧種のイヌワシと漁業被害を起こすカワウでは、その向き合い方が異なります。人と野生動物の軋轢の軽減を目指す野生動物管理の現場を紹介します。

司会



横浜国立大学
松田裕之

コメンテーター



東京大学
橋本禪



環境省
中尾文子



大牟田市教育委員会前教育長
日本ユネスコ協会連盟理事
安田昌則

最後の挨拶



京都大学
日本生態学会長
北島薫

横浜国立大学総合学術高等研究院生物園ユニット with 日揮

「宮脇の森」を歩いて考える

故宮脇昭名誉教授の「密植混植方式」で植えられた横国大の森は、40年経った今どのように成長したのか。どのような課題を持っているのか。実際に学内散策を通じて、ネイチャーポジティブを考えます。



2024年
3月20日(水)
13:00 - 15:30



横浜国立大学
経済学部講義棟2号館
(ハイブリッド)

参加無料

対面：当日先着順（600名）
オンライン：当日先着順（1000名）



プログラム

- 13:00 趣旨説明
松田裕之（横浜国立大学）
- 13:05 宇野裕之（東京農工大学、生態学会関東地区会長）
「鳥獣害管理の担い手を育てる」
- 13:10 八代田千鶴（森林総合研究所、「野生生物と社会」学会会長）
「野生生物と社会」学会の目指す新たな関係」
- 13:15 朱宮丈晴（日本自然保護協会、日本 MAB 計画支援委員会委員長）
「日本版ネーチャーポジティブアプローチをユネスコエコパークで展開する」
- 13:20 古田尚也（大正大学、IUCN 日本リエゾンオフィス）
「自然保護区以外の普通の場所の自然保護」
- 13:40 質疑応答・コメント
橋本禪（東京大学）
- 13:50 須藤明子（株式会社イーグレット・オフィス、日本イヌワシ研究会会長）
「人と野生動物の共存に挑む」
- 14:10 質疑応答・コメント
中尾文子（環境省）
村田浩一（ズーラシア園長）
- 14:20 倉田薫子（横浜国立大学）
「高校生から始める生物多様性」
- 14:40 質疑応答・コメント
安田昌則（大牟田市教育委員会前教育長）
- 14:50 総合討論
- 15:25 北島薫（京都大学、日本生態学会会長）
「日本生態学会の取り組み」
- 15:30 閉会

